

2011年 12月 08日

ブラジル日本商工会議所会頭 近藤正樹

2011年／忘年会挨拶文

本日はお忙しい中、お集まり頂き有難うございます。

2011年を振り返りまして、先ず初めに、3月に発生した東日本大震災、並びに、9月の四国・中国地方での台風豪雨被害に対し、皆様から多くの支援・激励が寄せられましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。会議所としましても、皆様と一致団結し、日本の復興・再建に向け更なる支援をしていきたいと思っています。

さて、今年4月に会頭職を拝命して以来、「開かれた会議所」「チャレンジする会議所」「全員参加の会議所」という当会議所の基本方針を掲げて参りました。現在、会員数は331、過去最高の333まであと少しです。団体・個人で益々活気溢れる会議所となっております。

その他にも大きなイベントとして、8月にブラジル・バイア州都サルバドールで第14回日伯経済合同委員会が開催され、様々な分野で貿易・投資促進やビジネス環境整備等に関して意見が交換されたことは記憶に新しいかと思えます。同時に日伯両政府主導で併催された第5回貿易投資委員会では、ブラジル政府の日本人ビジネスマンに対する最長3年の商用マルチビザ発給が議題に上りました。このビザに関しては、先月、めでたく両政府代表が覚書へ正式署名する運びとなり、このように官民一体となった強力体制が整いつつあることに会議所として大きな喜びを感じている次第です。

ブラジルは今年第1四半期にGDP成長率6.2%を達成するなど好景気を享受しておりました。しかし、下半期に入ってから、欧州での経済危機の影響を受け、国内の経済活動はやや減速化の傾向にあります。更には、ジルマ新政権の閣僚が次々と辞任するなど政治面での課題も山積しておりますが、来年、ブラジルは財政規律強化と政権閣僚改編を行い、大いなる飛躍を遂げるだろうと確信しています。

2012年の国連持続可能な開発会議(リオ+20)、2014年のサッカーW杯、2016年のリオ夏季五輪を目前に控え、ブラジルは官民共に盛り上がっております。会議所としましても、両国の経済関係の発展を促進すべく積極的な貢献を続けていく所存です。今後とも、皆様方のご支援、ご鞭撻を頂けます様、宜しく願い申し上げます。

以上